

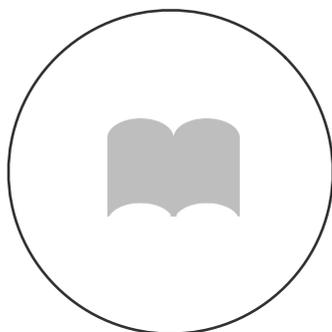
体験版

GB
GoliathBox

ガチデブ の俺が...

ショートタイム2 猥想短編小説集

文／絵 友野 勇



パソコンでご覧頂く場合

Adobe Reader（リーダー）のメニューから次の2つの項目をチェックします

- 1 『表示』 > 『ページ表示』 > 『見開きページ表示』
- 2 『表示』 > 『ページ表示』 > 『見開きページ表示で表紙を表示』

体験版

ガチデブの俺が…

ショートタイム2 猥想短編小説集

友野 勇

体験版

もくじ

- | | | |
|----|---------------------|----|
| 01 | 風呂のぞきガチデブ作業員 | 8 |
| 02 | 秘湯濡れた穴の真実 | 22 |
| 03 | ジム陵辱ビジター体験 | 44 |
| 04 | ビデオ屋ガチムチ店員のおすすめ秘蔵映像 | 62 |
| 05 | 臨時更衣室 真昼の情事 | 78 |

06	銭湯ガン見柔道部員罰ゲーム	96
07	早朝ジョギング 出会い系公衆便所	112
08	オフィスにお届け！ガチムチ宅配サービス	128
09	車座セツクス 廃品倉庫の快樂倶楽部	146
10	過激ビデオモデル 双子兄弟二本挿し！	172
	ゴリアテボックス作品のご紹介	203



04

ビデオ屋
ガチムチ店員
のおすすめ
秘蔵映像

ガチデブの俺が変態店員のいるビデオ屋に行きました

外回りの仕事が長引いて今日は直帰。さあ飯食って帰るか。

しかしここは初めて来た街で勝手がよく分からない。とりあえず飲食店の集まっていそうな場所を探そう。

駅前には小さな商店街があるんだけど、喫茶店とかファーストフードの店ばかり。で、駅の裏側に行ってみたら少し奥には閑静かんせいな住宅街があつて、その手前に定食屋や居酒屋があるっぽい。

もうすっかり夜になって、表側の商店街とは対象的に照明が少なく静かで暗い。

その歩道の先にそこだけすごく明るい黄色いビニールルーフの店が見えた。中華料理屋かと思ったら古びたレンタルビデオ屋だった。

フランチヤイズじゃなく個人経営のような店。今どきこんな店がまだ残ってるなんて。こんな田舎街でよくやっていけるなあ……なんて思いながら、ふと目に止まった店

先の張り紙。手書きで書かれているのは見覚えのあるビデオレーベル。ゲイビデオ制作会社の名前が！ そんなの置いてるんだ。とかつぶやきながら通り過ぎようと思いつつ足が止まる。

いやいや、エロ動画とかネットで観れるし、エロビは通販で買うし。……んー、でも買い取りもしてくれるのか。確かに、観なくなったゲイビデオの処分に困ってるんだよな。

おっと、こんな張り紙の前でじつとしてるのもなんだかまずいじゃないか。……どうしよう、どうしよう。つとまあ、言いながら入店。

ピョピョピョピョ！

もの凄いボリュームで鳥のさえずり音。客の入店を知らせる音なんだろうけど、そんな広い店でもないのに、なにこのでつかい音。びつくりしたあ……

二列の大きな棚たなが背中合わせに店の中央に置かれてありその奥にカウンターが見える。オヤジって言うには少し若いか。四〇後半くらいのガチムチ店員。坊主頭に黒ぶちメガネを引つ掛けていたが俺が入つてくるとなげにメガネを下ろしてこっちを見た。少し目が合う。ちよつとかわいい。

普通のアダルトが90%。入り口付近に一般の邦画洋画もの。そして奥のカウンター横

の一角にゲイものが置かれている。少し離れたところから並んでいるDVDのタイトルを眺めるそぶりで徐々にそのゲイコーナーへ接近。

斜めの視線でレベルを確認。おお、ガチムチばかりじゃないか。うー見たかったタイトルもあるぞ。ああ、これみんな中古販売なんだ。そうかそうか。

「いらつしやいませ」

店員が下を向いてスマホをいじりながら小さく言う。

どうしようかと思いつつゲイビデオの前で物色。店員一人で客はいないし、頻繁ひんぱんにくるところじゃないし、いいや。

そんなに安いつてわけでもないんだよなあ、なんて思っていると。

「そつち系ですか？」

店員、笑うでもなく普通の感じでこつちを見て言う。

「えつ、まあ」

「そういうのがタイプなら他にもありますよ。オリジナルですけど」

オ、オリジナル？ な、なんだその淫靡なひびきは！ 昔こつそり裏ビデオを出してくるビデオ屋があるという都市伝説を聞いたことがあるがそれじゃないのか！ ここはそういうことをやっているイケナイ店なのか！ そ、そうか、だから今まで潰れつぶれずにやって

これたんだな！ ああ、よくないなあ。バレると捕まっちゃうじゃないかあ。あ、ヤバイヤバイ。ヤバイなあ。……

「へえ、そうなんだあ」

「ええ、奥にありますけど見てみますか？」

「そうだなあ、じゃちよつと見せてもらおうかな」

「それじゃあ、こちらに」

も、もう胸の鼓動が止まらない。なんだこのワクワク感は！ ネットじゃありえない興奮がいまリアルにここにある。

カウンターの向こうに腰掛けていたその店員が立ち上がると、思いのほか身長が高く、ジム系の筋肉をTシャツの袖からむき出しにして俺の前を歩いて奥に進む。でっけえケツ。ムツムチじゃないか。いやらしい！ なんだその小さいシャツは。わぎとだろ。小さすぎて乳首が丸見えじゃねえか！ 後ろから抱きついてやろうか！

「パッケージとかないんですけど。ここで内容とか確認できますんで」

カウンターのすぐ奥。真っ黒で分厚いカーテンで仕切られていてそこに関係者以外立ち入り禁止と手書きされた札がピンで止めてある。その中に。照明のない暗い部屋は物置のような狭いところで、その隅にパイプ椅子があり前に液晶テレビが設置されている。

「このテレビに出しますので確認してみてください。ゆっくりどうぞ」

店員はそう言って出ていった。

カーテンが閉じられると真っ暗になった。しかしよく見るとテレビの画面は黒い画像が映っているようでほのかにあたりが照らされて見えている。な、なにが始まるんだよ。ああ、すげえなんだこれ。

するとテレビ画面に突然暗い背景にぼんやりとうごめくシルエットが映し出された。オーブニングタイトルやレーベルロゴなんかもなくいきなりだ。

ん？ 暗くてよく見えない。俺は画面に顔を近づけ、目を凝らしてそれが何なのかを確かめる。

えーつと、人の下半身だなこれは。

どうみても映すことを想定した映像ではない。隠し撮りだな、こりゃ。

確かに。これはオリジナルだな。それに少しイケナイ匂いもするぞ。いいのか。これは見てもいいものなのか？

すると映っている男らしき人物が下半身の真ん中あたりを右手でモゾモゾしはじめた。は、はじまった。……ゴツイ手だ。いいぞ、いい感じだぞ。少し脚を開き気味にして股間を強くまさぐる。いやらしい。やるのか。もっとやるのか。やるんだろ？ やれ、

やれ！

男はベルトに手をかけてすばやく外すと一気にずらしてニットトランクス一枚に。お！ 褐色の肌色が画面を明るくした。すげえ、ふつてえ太腿！ すげえいい。いいぞ！ トランクスの真ん中は強烈に盛り上がり、その先から透明の汁が山盛りになって漏れ出しシミになった。脱げっ！ 脱げっ！

ズローンとトランクスの内側から巨大なチ○ポが飛び出した！ 無修正だ。おおお、でつけえ！

チ○ポは上反り。亀頭の前から我慢汁を吹き出させて光っている。その亀頭が全部隠れるほどに皮を絞り上げてゆつくりと扱く。少しカットした陰毛も丸見えだ。い、いやらしい。

ほ、本当にあつたんだ！ くつくく！ あの都市伝説は本当だったんだ！

俺の中に後ろめたさと好奇心と少しの羞恥の悦楽のようなものが交錯して経験したことの無い興奮が湧き上がってきた。そして。

カーテンは少しの隙間をみせて閉じている。店員は受付。客はなし。……

俺はしずかにベルトを緩め、音がしないようにそろりと外すと、スラックスのファスナーを下ろした。こんなところで見せたらやりたくなっちゃうじゃんか。こんな暗い、

狭い、カビ臭い、エロい…… こんなところで。

すでにパンツはシミだらけ。めくると屈していたチ○ポが一気に飛び出して透明の汁がムチのように伸び上がり、ワイシャツの胸のあたりまで飛び散った。あああ。

テレビ画面の男の手はチ○ポをリズムカルに一定の速さで扱っている。そして中腰になるとシャツをまくり上げてゆつたりとした腹をあらわにした。カメラにはほぼ全裸のように見えている。が、しかし。男はあきらかにカメラを意識している。これは隠し撮りじゃないなあ。自撮りつてやつだ。自分でカメラをセットして撮ってるのかも。

幾分拍子抜けな感じは否^{いな}めない。でもまあ、それでも、こ、こんなところで、こんなことをしてるんだからな、俺は！

すると画面の男が身体を屈めて画面に顔を見せた。

ええっ！ 店員じゃん。そこにいるガチムチ男じゃんか！

へえっ？ なになに？ 自分のエロ動画を売ってるってこと？ へえ？ まあ、いいのか。あーいやいやダメじゃん。無修正じゃん。ヤバイ系じゃんか。…… 店員はシャツを首までまくり上げて身体をくねくねいやらしい。ほらあ、やつぱ乳首ビンビンじゃん。

そして店員が身体の動きを止めると画面の俺に向かって手招^{てまね}きした。ん？ なに？

店員は笑顔で頷きながらなおも手招きする。が、ずっと立ち上がって画面から消える
と、横のカーテンが開いてその男が姿を見せた。店員はシャツを首までまくり上げ、チ○
ポをビンビンに勃てて扱っている。えく！ いま？ いまやってたの？ なに、ライブ
映像!?

「にいさんチ○ポでけえなあ。こつちこいよ」

店員はチ○ポを扱きながらカーテンを全開にした。客が来たらどうすんだよ。

「ほら、そこ」

店員が指さした方向に小さなウェブカメラが取り付けられてあった。ちょうど受付カウン
ターの後ろにある物置棚の中段あたり。

「体もデケえなあ。なんかやってたの？」と店員。

「ラグビー」

「え、どこ？」

「プロップ」

「おお、俺、右フランカー」

「へえ」

「チ○ポなめて」

よくわからない展開だが俺はカウンターの下に潜り込んで男のチ○ポをくわえた。なんだこれは。メチャメチャ興奮するじゃないかよ！ ゴツイ腰回り。でつけえ黒チ○ポ！ じゆるじゆるうんめ。

店員は中腰になって俺の頭を抑おさえると、ゆっくりと腰を前後に動かした。喉のどの奥に膨れた亀頭が当たって一瞬息が詰まる。か、快感。

そのうち店員が俺のワイシャツのボタンをはずし始めた。こ、こんなところでですか？

しかし未知の興奮が俺を狂わせる。ヤ、ヤバイ。ブレーキが効かない。店員はワイシャツを脱がし、肌シャツも脱がし、そして自分もTシャツ一枚だけになった。俺は興奮し、パンツも脱いで全裸になってガチムチ店員のデカイ腰にしがみついてチ○ポをしゃぶりたおす。

「おおあー、たまんねえ。にいさんケツかして」

「こんな太つてえの入んねえ……」

店員はカウンターの下からローションを取り出して、俺の身体を半回転させた。顔がカウンターの奥に突っ込む形になって真っ暗。

「結構つかってんじゃない」

店員は俺の言葉を無視するようにつぶやいて穴をほぐしていく。

「いくよ」

店員はペチャペチャと穴の周囲のヒダに亀頭の裏を押し当てて音をたて、そのたびに震えるような期待が胸をさしてもどかしい。あああ、はやく……

すると熱い肉の塊がゆつくりと侵入し、腹の奥へと突き刺さり、店員の陰毛が穴の周囲に押し付けられるまでに入れられた。

「あああ、全部入った。穴すげえ広がっちゃった」

「あああ、す、す、すげえ。温ったけえ」

店員は徐々に動きを速めて激しく腰を突き上げる。俺の頭がカウンターの奥に当たってゴンゴンと音をたてる。ああ、ああああ。

「あ、たまんねえ」

店員が本格的に腰を突き入れ始めたその時。

ピョピョピョピョ!

わああ、客きたあ!

俺が身体を起こそうとすると店員は俺の尻を抑えたまま腰を深く押し込んできた。ぐ、ぐふう!

「ああ、い、いらつしやいませ」

店員は俺のケツ穴にチ○ポねじ込んだままカウンターで接客。

「いいのが入ったんだって？」

「ちつ、ちよ、ちよつと値段張りますけど」

「見てから決めようかな」

「い、いいですよ、どうぞ」

はあ、はあ、はあ。この店員どんだけエロいんあよおお！ あああ。

へええ？ お、お、奥に入ってたよ。カ、カーテンの向こうは……！

「にいさん仰向けで掘らして」

「な、なに」

「にいさんのエロい身体見せて」

店員は椅子を横に押しやり、カウンターの奥にスペースを作り、そこに俺を仰向けに寝かせた。

「そうそう。ほら、カメラあそこ」

さっきのウェブカメラを視線で促^{うなが}してみせた。

「へえ？」

「お客さんに見てもらおう。変態ラガーマンのセックス」

「へええ？」

「あああ、すんげえ変態。ほら、もつと出てきて。明るいところまで。よく映るところまで」

「はああ、あああ」

「もう穴ガバガバだあ。ほら入つてるところもすっかり映ってるよ。すっげ」

「ああはああ、そんなあ」

「だめ？ 見られるの？ だめ？」

「はあああ」

「なあ、興奮すんだろ。ほら、チ○ポすんげえ入ってるじゃん」

「なああああ」

「にいさんチ○ポガチガチじゃん。興奮すんだろ。なあ？」

「す、す、あああ」

「ああ？」

「す、すんげえー。たまんねえ」

「なあ、すげえエロいよお、にいさん。自分で脚開いて、チ○ポ入れられてるところ、見ら

「れたいんだろ、なあ？」

「はあああ」

「わあああ、丸見え！ にいさんち○ポ出たり入ったり。丸見え！」

「いやあああ」

「あああ、イキそう。もう出そうだよ」

「はあああ」

「いい。このままいい？ 中に入れてもいい？ なあ。いいか？」

「い、いや……」

「でる」

「はあああああ！」

「うん！ ふん！ うん！ うん！」

カーテンが開いて下半身丸出しのデブ男が巨大なチ○ポを手で抱えながらカウンターの裏へ入ってきて。

「オプション追加で」

巨根デブ男がそう言うと言員はブリュッと俺の穴からチ○ポを引き抜いてその男と場所を交代する。白い糸が穴から伸びてボタボタとあたりに汁が散乱する。

デブ男は無言で俺の股ぐらにひざまずき、その巨根を穴に押し当ててメリメリと押し込んだ。

「わああ、ああああ！」

「ああ、きつもちいい！」

穴の縁からびゅーつと店員のザーメンが飛び出した。

「がああああ！」

「いく、いく、いく、いく！」

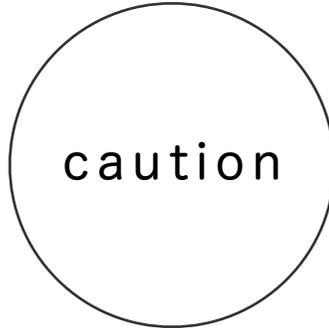
「へえええつ。ああああ！」

中に男のザーメンが放出されている様子がよくわかるほどに、巨根が大きく膨らむたびに穴がぐわつと広がった。

体験したことのない羞恥の快感で、俺は太つといち○ポを穴に入れられたまま大きく脚を開き、ガチガチになったち○ポからびゅつと一度だけ濃いザーメンを発射させて顔まで飛ばした。……

この店が潰れずにとずっとやっつけていけているのが分かるような気がした。

おしまい



この物語はフィクションです。実在の個人、団体、地域とは一切関係ありません。

この作品は空想物語です。公序良俗に反する行為や、性の描写について性感染症のリスクを伴う表現が含まれていますがこれらを推奨するものではありません。

性交渉においては正しい知識と判断で性感染症を予防しましょう。



GoliathBox

goliathbox.x.fc2.com

 [@Tomono_novel](https://twitter.com/Tomono_novel)

ガチデブの俺が…
ショートタイム2 猥想短編小説集

著 者 ともの いさむ
友 野 勇

サークル ゴリアテボックス [Goliath Box]

当作品の文章、画像等の無断転載、また複製やネット共有への
アップロードなどを禁止します。

体験版



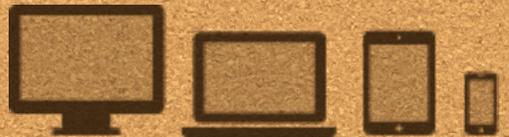
體驗版

GB

GoliathBox

サークル・ゴリアテボックス

作品のご紹介



It supports various terminals device.

ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

カラー
エロ挿絵 **17** 枚
(差分5枚含)



ハッテン場でスタッフに声をかけられたガチムチ智也くん。
好奇心旺盛な智也くんが玄関目隠し四つん這い待機に初挑戦！

スタッフはマンションの別の部屋からモニタリング。
ヘッドセットマイクで智也くんに指示を出しながら隠しカメラで状況を見守る。
なにかあったらマイクで知らせてね！っとはいいつつもスタッフから次から次へとえっちな指示が！



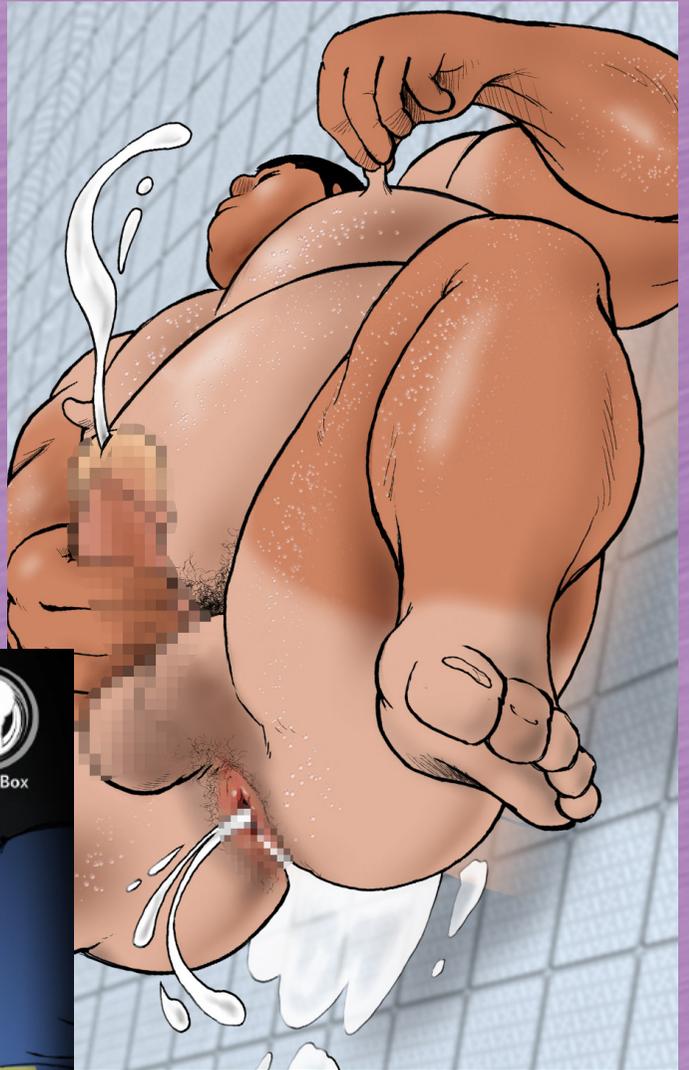
ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

6

枚



耕太郎
(仮名)

ハッテン インタビュー

猥想短編小説 文/画 友野 勇

人知れず存在する秘密の社交場。そこへやってくる淫乱野郎に直接交渉。さまざまな話を聞きながらその実態を暴く。突撃ハッテン場インタビュー。真夜中の公園でヒマしてたガチデブの構太郎くん（仮名）この世界での体験を赤裸々にエロエロ告白してもらいました！

ゴリアテボックス
友野勇の小説

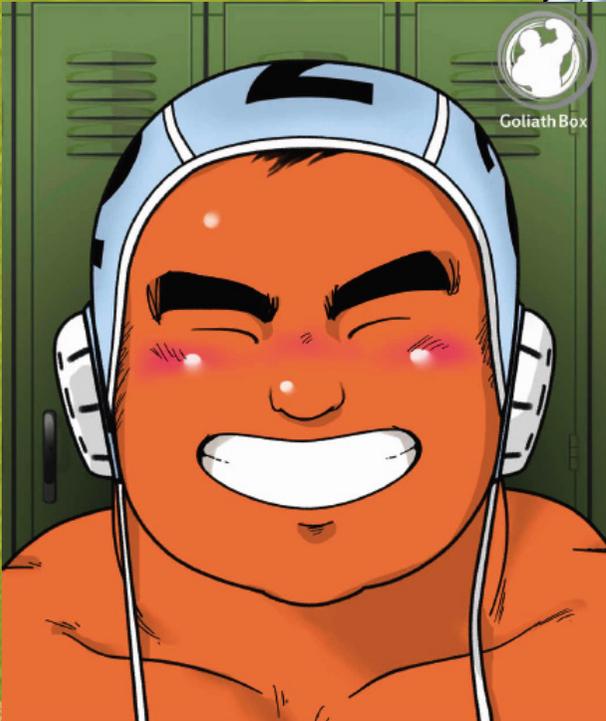
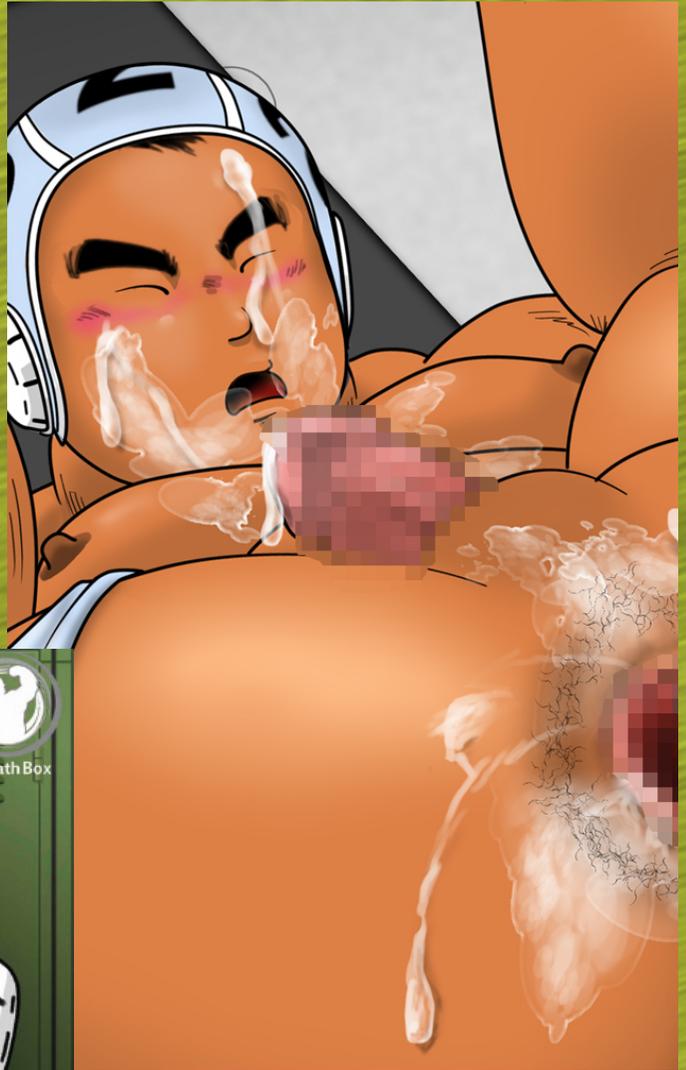
猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

11

枚

(差分5枚含む)



行列ができる 水球部員

猥想短編小説 文/画 友野勇

街角の小さなタバコ屋でアルバイトする水球部員のマサル。訪れる客に謎のポイントカードを配布してなにやらスケベなサービスをしているらしいのだが……

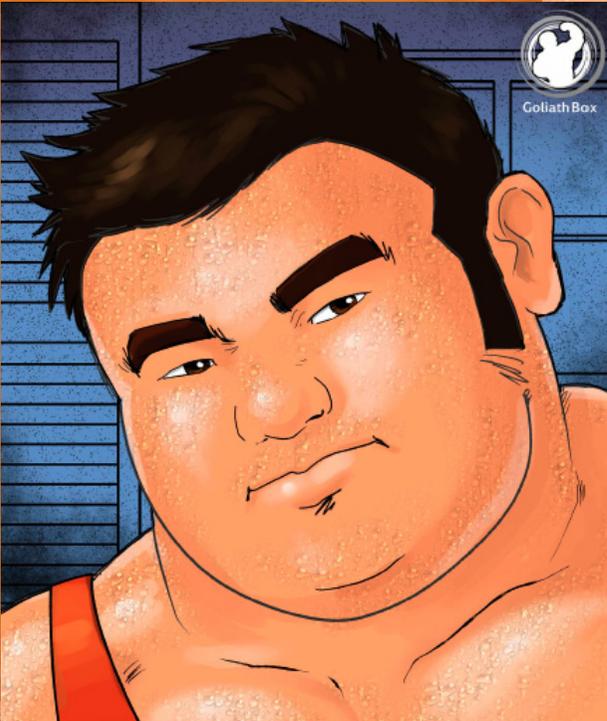
ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

6

枚



レスリング部員 倉庫でゴックン

猥想短編小説 文/画 友野 勇

学園祭間近のレスリング部。
当日のイベント広告のチラシを印刷
所に取りに行くよう頼まれたガチデ
ブ橋本。そこで待っていたレスリン
グ部 OB 剛田先輩が.....

ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

カラー
エロ挿絵

7 枚

(差分含む)



ラグビー部員 銭湯でガバガバ

猥想短編小説 文/画 友野 勇

ガチムチラガーマンの翔太は銭湯大好き！今日はいつも通っている馴染みの銭湯で清掃のアルバイト。でも部活帰りにちょっとお小遣い稼ぎに思っていたら……

ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説

白黒
エロ挿絵

6

枚



柔道部員 公衆便所でベチヨベチヨ

猥想短編小説 文/画 友野 勇

朝の練習中、突然もよおして便所へ
駆け込むガチムチ柔道部員の田島。
しかしそこは清掃中！作業している
おじさんに断られたが我慢出来ずに

.....

ゴリアテボックス
友野勇の小説

官能中編小説

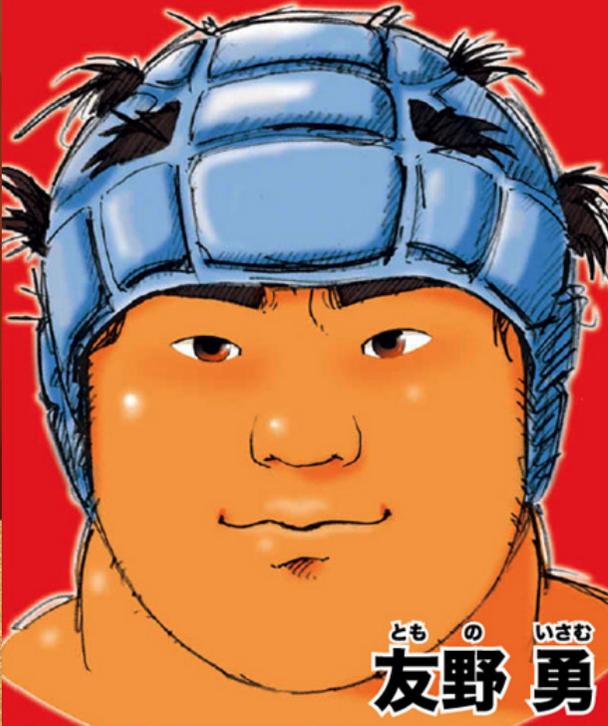
挿絵なし(状況 見取り図)

約 47,700 文字

PC用 96 ページ

スマホ用 291 ページ

乾 颯 太 郎



とも の いさむ
友野 勇

淫 行 記 1

高校の先輩に誘われてラグビーを始めた颯太郎。

大学ではその逞しい身体と希有な運動神経で皆に期待されるが結果が伴わずに苦悩する。

そんな新人の颯太郎に性処理をさせながらも慈愛に似た感情を持ってしまう2年先輩の鴻野。ノーマルで男同士の愛情に戸惑いながらも颯太郎との関係は深く強くなっていく。

しかし一方で颯太郎は羞恥の快楽に目覚めて淫猥な世界に堕ちていくのだった。

読む本
じっくり



ゴリアテボックス
友野勇の小説

官能中編小説

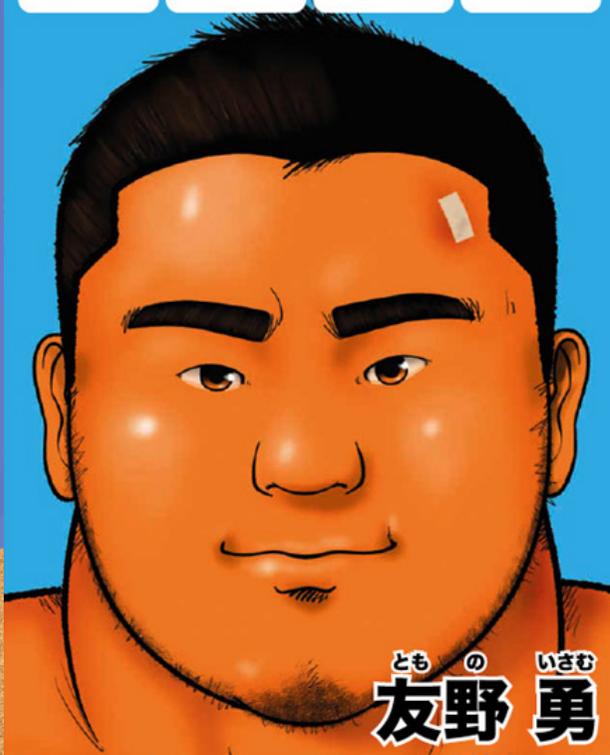
挿絵なし(状況 見取り図)

約 45,000 文字

本編 315 ページ

全項 394 ページ (他作品の紹介含む)

乾 颯 太 郎



とも の いさむ
友野 勇

淫 行 記 2

ラグビーで鍛えたその身体が羞恥の快楽に溺れていく……。

暗闇の淫猥な世界の果てに見た男同士の恋愛は本当に存在するのだろうか。颯太郎の淫行の旅が続く。乾颯太郎淫行記のシリーズ第2章です。

各章は新たなお話と登場人物によって完結していますので『乾颯太郎淫行記1』を読んでいない方もお楽しみ頂けます。

読む本
じっくり



ゴリアテボックス
友野勇の小説

官能中編小説

挿絵なし（巻頭イラスト）

約 52,000 文字

本編 179 ページ

全項 272 ページ（他作品の紹介含む）

不知火

友野勇



Goliath Box

強く男らしい男を求める裕太。極道の世界を生きる伊沢。二人は強烈にぶつかり合い、交わり合いながらそれぞれの道を見だしていく。

読む本
じっくり



ゴリアテボックス
友野勇の小説

官能中編小説

挿絵なし

約 57,000 文字

PC用 100 ページ

スマホ用 282 ページ

自販機の設置や管理をしている会社で高橋良二は営業部の主任を務めている。部下の野田とは長年同じ業務を受け持つ先輩後輩の仲で、野田は良二を仕事の面でも人としても尊敬しているのだが、年上の大柄な男に引きつけられてしまう性癖を持った良二は、そんな年下の野田にも最近男として不思議な魅力を感じ始めていた。

ある日良二は自宅近くの公園で知らぬ男たちと淫猥な行為におよび、亡き父の影を引きずっていることと関係があるのだという思いに戸惑うのだった。



あさなぎ

とも の いさむ
友野 勇

読む本
じっくり





ゴリアテボックス
タッピングゲーム

簡単着せ替えゲーム

PDF ビューアで遊ぶ、着せ替えゲーム！

30 パターン以上のコスチュームとゲームクリアでおまけ画像あり！スマホやタブレットでもプレイできます！ガチムチなわがままケンタの満足度 100%をめざせ！基本的には 1 ポーズの差分画像で遊ぶゲームです。複数のシチュエーション（シーン）があるわけではないのでご注意ください。ゲームで使用しているリンクボタンは Adobe Reader 以外のアプリケーションでも動作するものがありますが保証の限りではありません。また、OS や Adobe Reader のバージョンによっては、動作しない場合があります。購入を検討される前に必ず体験版で動作確認するようお願いします。

わがまま

KENTA の

着せ替え

ゲーム

グレーのパーカー

ブルーのブルゾン

1 %



こういう感じもいいよね

10 %



20 %



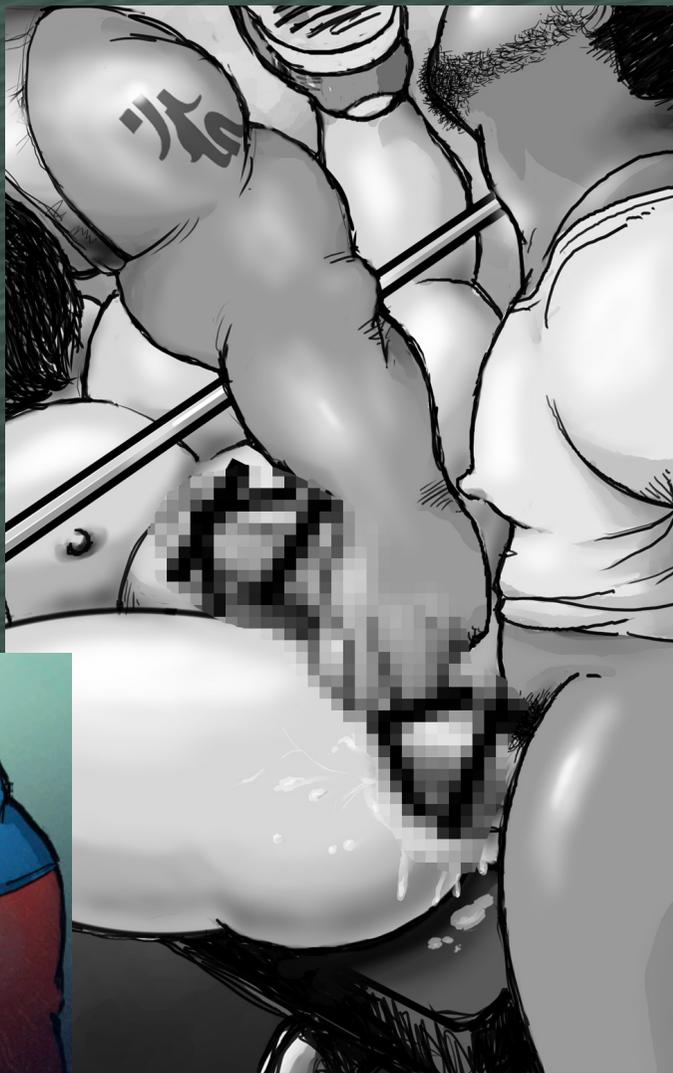
ゴリアテボックス
友野勇の小説

猥想短編小説集

白黒
エロ挿絵

8

枚



のぞく
変態不動産
専門ジム

猥想短編小説集
文 / 画 友野勇

古いアパートのガチムチ男を覗き見する啓介、しかし... (のぞく)
部屋探しで訪れたへんな不動産屋。格安物件の秘密とは... (変態不動産)
ネットで見つけた誰も知らないスポーツジム。変態すぎる男たち。(専門ジム)
短編小説3話です。



体験版